子規がつくった俳句 その2

あたらしい俳句 ―俳句の革新―

子規はどんな俳句を作ったの？

子規は、「俳句は文学」と考え、「作った人の気持ちや、その時の様子が想像できる俳句を作ろう」とよびかけました。そして、世の中の出来事や旅で見た風景などを、分かりやすい俳句にして、新聞や雑誌などに発表しました。「写生」の俳句を作ろうと、俳句の革新に取り組んだのです。

俳句は５・７・５の17音で作ります。その中に季語（四季それぞれの季節感を表す言葉）を入れます。

子規の俳句が全国に広まる

子規が作った俳句は分かりやすく、「俳句の作り方を教えてほしい」「自分の作った俳句を見てほしい」とたくさんの人が俳句を送ってきました。

子規たちが作る新しい俳句は、いつの間にか日本全国の人たちに広まりました。そして「日本派俳句」と呼ばれました。主に新聞「日本」で作品の発表をしていたからです。

子規の俳句を見てみよう

夏草や
ベースボールの
人遠し

季語 夏草
季節 夏

いくたびも
雪の深さを
尋ねけり

季語 雪
季節 冬

贈り物の
数を尽して
クリスマス

季語 クリスマス
季節 冬

※このシートでは、明治１年＝子規１才、明治２年＝子規２才…としています。

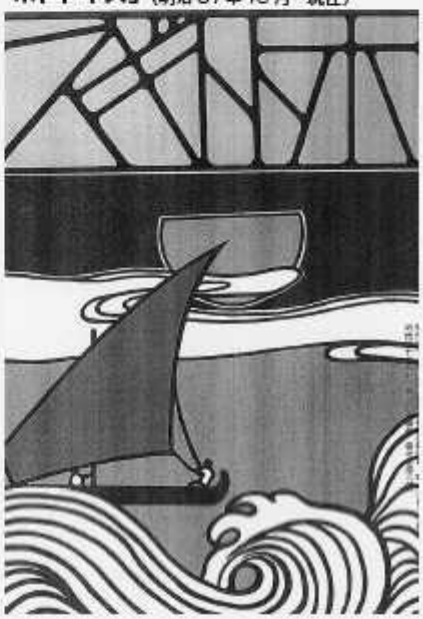
俳句の雑誌「ほととぎす」の誕生

明治30年（1897年）、子規たちは日本派の俳句活動をもっとたくさんの人に広めるため、俳句の雑誌「ほととぎす」を作りました。はじめ松山で作られていた「ほととぎす」は、次の年から東京で作られるようになりました。

展示室でチェック！ 雑誌「ほととぎす」と「ホトトギス」

「ほととぎす」（明治30年1月～明治31年9月）

「ホトトギス」（明治31年10月～現在）



松山で発行しました。子規の友達・柳原極堂が編集長をしました。子規たちの俳句の作り方や、募集して集まった俳句をのせました。

▲柳原極堂

読む人が全国に広まったので、東京で発行することになりました。編集長は、子規の後はい・高浜虚子が担当しました。俳句のほか、絵や文章もせました。

▲高浜虚子

子規博にも…

子規記念博物館のげんかんとびらは、右上の「ホトトギス」の表紙デザインを使っています。

展示室でチェック！ 句会の様子

子規たちが句会をしている様子の絵です。子規や虚子をさがしてみましょう。